



ウンボ、スリッパ 1927-30 年

シュルレアリスムと写真

- 痙攣する美 -

Surrealism and Photography
BEAUTY CONVULSED

2008 年 3 月 15 日(土) ~ 5 月 6 日(火・祝)

東京都写真美術館3階展示室

主催:(財)東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

助成:美術館連絡協議会

展覧会概要

1924 年、『シュルレアリスム革命』誌上において活動の開幕を宣言した 20 世紀最大規模の芸術運動は、提唱者であるアンドレ・ブルトンを中心として、多用な表現世界を繰り広げました。その活動は発祥地であるパリはもとより世界的な展開をみせ、イギリスやベルギー、チェコをはじめとするヨーロッパ各都市やアメリカやメキシコにも影響を及ぼしました。それは日本においても例外ではなく、大戦間から戦後 50 年代に至る前衛写真の領域において、純粋な視覚表現から、広告やファッションに至る多方面に浸透していきました。

本展では、写真とシュルレアリスムの関係に注目し、日本においても、特に絵画表現によって人気の高いシュルレアリスムの活動を、さらに多角的な視野から問い直そうとするものです。近年、世界各地において、大規模なシュルレアリスム関連の企画展覧会が頻出する中、シュルレアリスムの全貌を問い直し、「シュルレアリスムとは」という問いかけから、「写真とは何か」という問いかけに繋がる考察の場として、前世紀における美術表現に革命をもたらしたユニークな視覚世界を、多彩な出品作品によってご紹介いたします。(出品予定点数: 約 200 点)

展覧会のみどころ

この展覧会は、シュルレアリスムを写真に特化して企画した展示としては、国内初の大規模展です。

シュルレアリスムとは、ひとつの思想であり、そこに到達しようとした表現者たちが目指そうとしていた世界でした。超現実主義とは、単なる空想のなかに存在する非現実の領域を表そうとしていたのではなく、現実のなかに存在する言わば強度の現実を捉えたものであり、現実と繋がった世界です。



マン・レイ、醒めてみる夢の会、1924 年



ビル・ブランド、
イースト・サセックス・コースト、1953 年

その意味で写真は、シュルレアリスムという思想に最も近い場所に到達し得る可能性を秘めたメディアであったといえるでしょう。

シュルレアリスムの絵画をテーマとする展覧会は、昨今、日本でも頻繁に開催されるようになってきました。ダリ生誕100年を記念して世界各国で数多く開催された展覧会は人気を呼びました。しかし、シュルレアリスムという20世紀最大の芸術運動に、写真が重要な役割を果たし、また多くの傑作が生み出されていることはあまりよく知られていません。マン・レイの回顧展等が度々開催されていますが、それ以外にもシュルレアリスムの影響を受けた写真家たちは数多く存在していました。今回の展覧会では、人気の高いマン・レイやハンス・ベルメールの作品以外にも、多くの傑出した表現者たちが活動していたことを知る、格好の機会となることでしょう。

また、この展覧会では、平井輝七や山本^{かんすけ}悍右、後藤敬一郎から^{えいきゅう}瑛九、植田正治、大辻清司、^{おかのうえとしこ}岡上淑子といった、日本の表現者たちの作品も展示されます。

世界的な広がりを見せ、広告やファッションといったあらゆる領域にまで浸透し、人間の感性や表現力に革命をもたらしたこの魅力的な世界に、是非足を踏み入れてみてください。



植田正治、コンポジション、1937 年

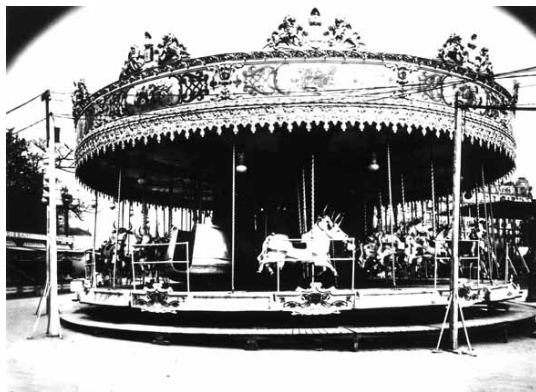
鑑賞のポイント



モーリス・タバール、題不詳、1930-35 年

シュルレアリスムはむずかしそう、という方も、まずは、写真作品として、その一つ一つのユニークな発想や表現をそのまま楽しんでみられてはいかがでしょうか。作家たちはいったい何を表現したかったのか？それをいま鑑賞する私たちは、素直にどう感じるのか？写真は今でこそ私たちにとって身近なものですが、絵画等に比べてまだまだ新しい表現方法です。この展覧会で、写真家たちの斬新な発想をお楽しみください。そして、写真だからこそできるユニークな表現に注目してみてください。そうすれば、私たちは写真を「撮る」だけでなく、もっと自由に表現できるものとして楽しむことができるでしょう。

ジャン・ウジェーヌ・オーギュスト・アジェ、J.アンドレ・ボワッファール、マン・レイ、ハンス・ベルメール、ハーバート・リスト、ルネ・マグリット、マックス・エルンスト、ヘルベルト・パイヤー、インドリッヒ・シュティルスキー、ビル・ブラント、モリス・タバル、ブラッサイ、フランティセク・ヴォベッキー、ピエール・ブシェール、カール・ブロッスフェルト、アンドレ・ケルテス、ウンボ、ヴォルス、平井輝七、山本悍右、後藤啓一郎、瑛九、植田正治、大辻清司、岡上淑子、植木昇 他



ジャン・ウジェーヌ・オーギュスト・アジェ、
メリーゴーランド、1923年

シンポジウム／レクチャーなど

●関連シンポジウム「シュルレアリスムの宇宙」

日時：4月20日（日）

第1部 午後2時より / 第2部 午後4時より

場所：1階ホール

司会：神保京子（東京都写真美術館学芸員）

パネラー：鈴木雅雄（早稲田大学教授）

林 道郎（上智大学教授）

塚原 史（早稲田大学教授）

千葉文夫（早稲田大学教授）

先着順（定員制：当日に整理券を発行します）

●連続記念講演会「写真とシュルレアリスム」

日時：4月26日（土）

第1部 午後2時より / 第2部 午後4時より

4月27日（日）

第3部 午後2時より / 第4部 午後4時より

場所：1階アトリエ

講師：巖谷國士（明治学院大学教授）

先着順（定員制：当日に整理券を発行します）

●担当学芸員によるフロアレクチャー

会期中、第2・第4金曜日午後2時より、

担当学芸員によるフロアレクチャーを開催します

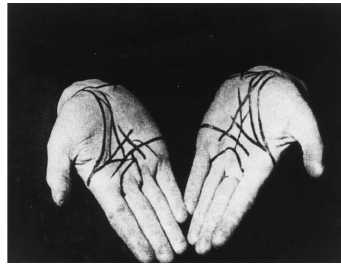
観覧チケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます



ピエール・ブシェール、モロッコの風景のなかに
コラージュされたヌード（アトラス山脈南部）、1937年



インドリッヒ・シュティルスキー、
「この頃の針の先で」より、1934-35年



(左上)植木昇 題不詳
(左下)永田一脩 題不詳
(右)岡上淑子、幻想、1952年



開催概要

会 場 東京都写真美術館 3階展示室

電話 03-3280-0099 URL: <http://www.syabi.com>

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

JR恵比寿駅東口より徒歩7分・東京メトロ日比谷線より徒歩10分

観覧料 一般 700(560)円/学生 600(480)円/中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員割引料金

小学生以下、障害をお持ちの方とその介護者は無料 第3水曜日は65歳以上は無料

開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで)

入館は閉館時間の30分前まで

休館日 毎週月曜日(ただし5月5日は開館します)

お問い合わせ先

東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

事業企画課

展覧会担当 神保 京子 k.jimbo@syabi.com、鈴木佳子 y.suzuki@syabi.com

広報担当 久代 明子 a.kushiro@syabi.com、島津 彰子 a.shimazu@syabi.com

電話 03-3280-0034 FAX 03-3280-0033

プレス掲載用図版について

このプレスリリースに掲載されている作品図版を、プレス掲載用にデータにてご用意しております。
上記広報担当までお問い合わせください。